

【資料紹介】

佐渡年中行事調査票目 (1)

池田 哲夫

筆者は本誌前号(第三号)において、柳田国男が佐渡に関心をよせた契機の一つに石見佐次右衛門との出会があったことを述べた。柳田は一九二〇(大正九)年に初めて佐渡を訪れて以来、柳田の興味関心のある地域となり、門下の民俗学研究者を佐渡へ送り込み調査にあたらせている。

佐渡では民俗への興味関心を持つ人々により一九三七(昭和一二)年頃民間伝承の会佐渡支部が設立されるが、この設立の直前に柳田は夫人を伴い佐渡へ渡り、佐渡の民俗研究者等と親しく交流をしている。柳田の来島で佐渡の民俗研究熱はにわかにも高まり、支部活動として年中行事の調査が行われ、成果として『佐渡年中行事』が刊行された。

『佐渡年中行事』は一九三八(昭和一三)年に民間伝承の会(東京市目黒区下目黒四丁目一〇〇四番地)から、柳田の序文入りで刊行されている。

この調査にあたり、年中行事採集のための調査標目(項目)が作成されていることを一九九五(平成七)年に佐渡博物館所蔵青木重孝資料のなかに見ることができた*₁。こうした地方で作成された調査項目は、柳田の指導した「山村調査」「海村調査」における「採集手帖」の項目と関わりがあるものなのか調査方法の上で検討しておく必要がある。

そこで、本号ではまず佐渡年中行事の調査に際して民間伝承の会佐渡支部が作成し、調査者に提示した調査項目について資料紹介を試みたい。なお、『佐渡年中行事』の調査から刊行に至るまでの民俗学史的な意義については拙稿*₂をご参照願いたい。

年中行事の調査も当初は正月行事についてのみ行う予定であり、まず「正月編」が編まれている。その調査の結果を柳田に見せたところ、「(イ) 昨年多大の御厚情を以て御調査御報告下さいました」「佐渡年中行事 正月篇」を各項目別に分類編纂して斯界の権威柳田国男先生の校閲を経ました処、東京「民間伝承の会」から出版する事となり、一躍日本的となりました。(ロ) 就ては正月だけとせず、一年全部を一冊に纏めることにせよとの柳田先生の厳命により重ねて正月以後の調査項目を作成し御依頼しました*₃と、柳田の示唆によって正月行事だけではなく佐渡の年中行事全般に調査を広げるようになったものである。さらに民間伝承の会佐渡支部では一九

三七（昭和一二）年一二月に「其の貳 後編」として年中行事全般にわたる調査項目を設定している。なお、本号では紙幅の関係で正月編の紹介にとどめる。

（表紙）

昭和十一年十二月
佐渡年中行事調査票目 其の壹 正月編
佐渡郡小学校国語研究会
民間伝承の会佐渡支部
中山徳太郎
青木重孝

（B四判半紙に謄写印刷 総ページ数二八頁）

総説

一 序言

（イ）従来の古文書による郷土誌に対してどここの民家にも遣り伝へられて居る言ひ伝へ行ひ伝への方面から郷土誌を考へてみようとす
る一ツの企てがこの「佐渡年中行事調査」の仕事である。

（ロ）斯うした伝承は実に驚く程の長い間の伝統を経て居るもので記紀以前に遡り得るものが極めて多いのである。日本庶民の歴史として尊重せられねばならない所以も此処にあるとせられる。

（ハ）其の郷土に於ける総ての慣行を知ることには郷土教育に対する妥当な認識と教養に寄与する所以の一ツでもあるという其の意味からしても斯うした企は着々と遂行せられねばならないであらう。

（ニ）山村、農村、漁村、町場等種々様々な生活形体を包含して居る本郡の如きは極めて多様の行事様式相隣しながら全然他人の如くして保持し合つて居るのである。茲に広く調査し比較して見る興味が多いのである。

（ホ）此嶋国は古い時代に於て多くの移住民を迎えて居る。内外海府は古の海部の者*と云はれ石見からまた姫津の村甲州からまた一党、また岡崎の党、金子の党等枚挙に暇がない程である。それらの人々の持ち伝へた行事は今日形跡もなく周囲と交りあつてし

まいったらうか、此調査の興味は其の辺にも少しはある。

(へ) 然しながら一ツの大きな憂慮はかうした極めて貴重な伝承も特に島国は遅くまで持ちこたへる力が強いのであるが、今日の速度のめまぐるしい新文化の嵐にまきこまれて刻々に消えて行つて居るのである。我々祖先の生活の遺風を消えるに委せて置くことは何としても惜しい限りではある。

(ト) 然るに此の度小学校及其の他の有識者がこの挙にあまねく参加せられて恰も網の目の如き全島に亘つての萬遍ない調査が遂行せらるゝのは未だ嘗てみない実に画期的の盛事であると云はねばならぬ、其の成果は期して俟つべきであらう。

二 採集事項

行事の各項目を通じていづれの場合でも凡そ左の事項に付いて調査する必要がある。誰が、何と、何時、何処で、何故に、何すると云ふ風に説明することに他ならない。

(1) 称呼

(イ) 総称を何というか

・ 正月七日のことを「七カ日」と云ふ

(ロ) 各部分を何と云ふか

・ 正月七日の粥を「七草粥(ナナクサゲエ)」と云ふ

(ハ) 各仕方を何と云ふか

・ 七種を組で調子を取つて叩き粥に交ぜる事を「七草を囃す」と云ふ

(2) 期日

(イ) 旧、中、新暦の区別を明かにする

(ロ) 今と昔との別を明かにする

・ 正月十五日飾松を納める(昔は正月七日であった)

(3) 作法

(イ) 時刻

・ 夕方とか朝飯前とか

(ロ) 場所

・ 村外れとか、四辻とか

(ハ) 方角

- ・明きの方とか、家より高い方とか

(三) 人物

- ・年男とか、必ず女とか
- ・其の服装とか、化粧とか
- ・其の選方とか、精進の仕方とか

(ホ) 道具

- ・どんなものを用ゐるか
- ・どうして作るか
- ・其の理由等

(ヘ) 作法

- ・どんな事をするか
- ・どんな風にするか等

(4) 食物

(イ) 作り方

- ・行事には必ずといってよい程特殊の食物が付く
- ・其の作り方を調べる

(ロ) 食べ方

- ・神棚に供へてから食ふとか
- ・動物に食はせるとか
- ・家族だけで食ふとか
- ・三杯食ふとか等

(5) 縁起 (俗信)

- ・どういふ理由で、由来などで調べる
- ・それらに関する色々な言伝へも調べる

- ・「正月六日の晩には大便所へ行かぬ、神様が便所の汚れを碇ひに出るから」という風の俗信は仲々多いものである
- (6) 唱へ言

- (イ) 「トナエゴト」を調べる。正月十五日の果樹責めに「ドウダ、ナルカナラヌカ、ナラヌトキルゾ」の類
 - (ロ) 歌も調べる。正月十五日の「トウドヤサン」に子供の歌ふ「トウドヤ、トウドヤ、銭も金もワァク／＼」の類
- 三 採集方法

- (1) 一大字位を以て一調査区域とする。
- (2) 街道に沿うた所よりも少し奥まった村の方が効果的である。
- (3) 余り小戸数の村よりも二、三十戸以上位の集落がよいと言はれて居る。
- (4) 提供者としては男よりも女がよく、若い者よりも老人がよいときれて居る。
- (5) 調査区域内に幾通りもある時は及ぶ限り列記する。
- (6) 今と昔を区別し出来るだけ昔の方法を聞き出す必要がある。
- (7) 明かに最近起れるものは採集に及はず(四方拝など)。
- (8) 採集者の意見は其の旨明らかにし、伝承と区別することにした。
- (9) 記載は聞かまゝになし、修飾を施さない方がよい。
- (10) 出来るだけ方言の呼び方を採集したい(記載方法参照)。
- (11) 与う限り緻密に採集することが必要である。然し採集項目にあつても其の土地に無いものは一々記載する必要はない。
- (12) 個人に関するものや謡歌なるものも残さず採集したい(勿論公表は別問題である)。
- (13) 出来るだけ黒色の「スケッチ」を添へて欲しい。
- (14) 根気よく数回に亘り繰返へし採集したい。

四 記載方法

- (1) 調査用紙
 - (イ) 一項目毎に別紙を用ふ。
 - (ロ) 題目は正月行事採集項目の番号と題目を用ふること。
 - (ハ) 長きものは裏表共記載し、二枚に亘るものは番号と題目と頁数を記入すること。
- (2) 方言記載方

(イ) 片仮名を用ゐる「・・・・」を付す。

(ロ) 発音通りに書き、訛音たりとも正さないこと。

(ハ) 漢字で記載のものは振仮名を付すること。

(ニ) 仮名遣の定

(1) 拗音「ヤ」「エ」「ヨ」は右側下に細書きする(キヤ、キユ、キヨ)。

(2) 促音「ッ」は右側下に細書きする(ウッ、テ)。

(3) 長音は次の上か下を用ゐる。

カア カー

キイ キー

クウ クー

ケエ ケー

コォ コー

(3) 難語には出来得る限り註を(・・・・)を以て記入すること。

追加(四) 記載方法の末項に左の一項を加ふ)

(ニ) 採集項目に挙げられて居ないものが寧ろ特殊のもので価値の高いものである。是は別に題目を適宜付して採集せられたい。例へば月布施の正月行事に「他所から村へ新しく入った者或は所で大変憎れて居る者などを毘沙門天の祭りのとき果ぐ」などあり、又正月十八日十五日の残り小豆粥を食べるなどがそれである。

以上

佐渡正月行事採集項目

一、松迎

(一) 時、用意、方角

- ・松を迎へることを何と云ふか
- ・何日を選ぶか、一日のうちでいつ出掛けるか、その理由
- ・どの方角から迎へるか
- ・誰がいくか
- ・其の用意はどうするか、縄や鉈などに就いて

・その他

(二) 山で

- ・どんな松を選ぶか
- ・誰の山で伐るか
- ・其の伐り方はどうか
- ・家へ運方はどうするか

・その他

(三) 家で

- ・家のどこに置くか
- ・家ではどうするか
- ・其の夜はどうするか

二、煤掃

(一) 時

- ・どんな日を選ぶか

・その他

(二) 夜

- ・其の夜を何と云ふか
- ・どんな食べ物を食べるか
- ・その他

(三) 其の他

- ・煤箒などはどうするか
- ・その他

三、歳暮

(一) 時

- ・何日に贈るか

(二) 品

- ・何といふか

- ・どんな品をどんな家に配るか

(三) 方法

- ・誰が持つて行くか

・其時の挨拶

- ・お返へしはどうするか

(四) 家族

- ・誰に何をくれるか
- ・いつくれるか

・その他

四、餅搗

(一) 時

・何日に行ふか

・何時から始めるか。

(二) 搗方

- ・特別なことをしないか
- ・誰が搗くか
- ・その他

(三) 餅

- ・どんな餅を搗くか(水の餅、宇賀の餅など)

・幾回目とするか

・白洗ひ餅はいつ搗きどうするか

・その他

(四) 其の他

- ・餅を搗かない家はないか
- ・其の理由^{ワケ}
- ・その他

五、奉公人

(一) 時

- ・いつ出替りするか

(二) 仕方

- ・どんなにして前の奉公人を送るか
- ・新しい奉公人と古い奉公人と引継はあるか

・新しい奉公人はどんなにして家に

六、松 飾

入るか

・ 其他

(一) 時、準備

・ 何日のいつごろ飾るか

・ どんな準備をするか

・ 誰がするか

・ 其他

(二) 門 松

・ 家のどこにどんなにして飾るか

・ 注連縄を付けるか

・ 其他何を付けるか

・ 何と呼ぶか(家の内との区別があるか)

・ 其他

(三) 年神など

・ 年神様などはどうするか

・ 年棚などつくるか

・ 道具にはどうするか

(四) 村の出入口

・ 松、注連縄を飾るか

・ 其の方法

・ 其他

(五) 墓

・ 其の飾方

・ 其他

(六) 其他

・ 其他どこへ飾るか

・ 変わった飾方があるか

・ 其他

(七) 飾らぬ

・ 松を飾らぬ家はないか

・ 其の理由

・ 其他

七、御飾り

・ お飾りを何というか

(一) 時、人

・ いつ飾るか

・ 誰が飾るか

・ 其他

(二) 飾り方

・ どこに飾るか

・ 其の飾方はどんなにするか(数、添物など)

・ 其他

(三) 下げる

・ 下げる

・ いつ下げるか

・ 其を何と云ふか

・ 下げてどうするか

・ 其他

(四) 其他

・ お寺やお宮へはどうするか

・ 其他

八、勘 定

・ どんなものを勘定をするか

・ 何時迄するか

・ 農事などの手伝にはどんなにするか

・ 其他

九、新御霊

・ 年内に新仏のあった家はどうするか

・ 村内親族の者はどうするか

・ 何と云ふか

一〇、厄 払

(一) 厄 年

・ 男はいくつか

・ 女はいくつか

・ 其の前後を何と云ふか

・ 其他

(二) 厄 払

・ 其の仕方どうか

・ 其他

(三) 厄 落し

・ 厄年の者はどうして厄を落とすか

・ 其他

一一、大晦日

(一) 用意

- ・三十一日の日を何と云ふか
- ・神棚、仏壇等へどんな用意をするか
- ・其他

(二) 年取り

- ・食事の前に何をするか
- ・不在者にはどうするか
- ・動物などに年をとらせると云ふいうことをするか
- ・平常と比べて食器、座所などはどうか
- ・其他

(三) 食物

- ・年取りにどうしても食べるもの
- ・献立
- ・其の縁起
- ・其他

(四) 年男

- ・誰がなるか
- ・どんなふう^に他の人や平常と異なった暮しをするか
- ・どんな役をするか
- ・其他

(五) 俗信

- ・どんな俗信があるか

(六) 小年取

- ・小年取はいつか
- ・其の食物の仕方はどうか
- ・其他

一二、正月元日

(一) 朝の火

- ・誰が焚くか
- ・何で火を焚くか
- ・薪の用意など
- ・其他

(二) 食物

- ・何を食べるか其の理由
- ・何を食べぬか其の理由
- ・何度、いつ食べるか
- ・其他

(三) 俗信

(四) 年玉

- ・何と云ふか
- ・誰にやるか
- ・何をやるか
- ・其他

(五) 其他

一三、元日のお詣

- ・何処へお詣に行くか
- ・どんな風にするか

- ・人に言葉をかけてはならぬなどないか

其の理由

其の他

一四、若水、^{ハカクメ}齒固、福茶

(一) 若水

- ・いつ汲むか
- ・誰が汲むか
- ・汲む時の作法はないか
- ・汲む時の唱へ言はないか
- ・其他

(二) 齒固

- ・何と云ふか
- ・何を食ふか
- ・其の理由
- ・其他

(三) 福茶

- ・何云ふか
- ・誰が出すか
- ・特別の作法はないか
- ・其他

一五、年始

(一) 村年始

- ・誰が出るか
- ・どんな家に行くか

- ・挨拶の仕方かどうか
- ・いつするか
- ・その他

(二) 寺年始

1 寺への年始

- ・いつするか
- ・寺へ持って行くもの
- ・寺の仕方等

2 寺からの年始

- ・いつ来るか
- ・誰が来るか
- ・何と云って来るか
- ・何を持って来るか
- ・民家ではどうするか
- ・その他

(三) 年始客

- ・いつまでするか
- ・どんな御馳走をするか
- ・女の年始はどうするか
- ・嫁姑の年始はどうするか

一六、正月二日

- ・食物はどうか
- ・その他

一七、仕事始

- ・いつするか

- ・どんな仕事初をするか
- ・其の仕方
- ・その他

一八、初 夢

- ・いつ見るか
- ・宝船などはどうするか
- ・夢の吉兆はどう云ふか
- ・その他

一九、正月三日

- ・どんな食物を食ふか
- ・どんな事をするか
- ・此三日間を何といふか

二〇、正月六日

- ・何といふか
- ・どんなことをするか
- ・俗信

二一、七 草

- ・その他

二二、七 草

- ・どんな準備をするか
- ・七草とは何々か
- ・誰が切るか
- ・其の時のやし言詞
- ・その他

二三、春祈禱

- ・何と云ふるか

- ・どんな事をするか
- ・いつするか
- ・其時厄祝をするか
- ・其のたばねはどうするか
- ・その他

二三、正月十一日

- ・倉開きの仕方はどうするか
- ・稼ぎ初めはどんな風にするか
- ・田畑の打初めはどんな風にするか
- ・その他、どんなことをするか

二四、松 納

- ・何と云ふか
- ・いつ納めるか

- ・何か特別なことをするか

- ・その他

二五、トウドヤサシ

(一) 呼び方

- ・何と呼ぶか

(二) 場所

- ・どんな処でするか

(三) 時、人

- ・いつするか
- ・誰がするか

- ・子供の仕事はどんな事か

(四) 歌

- ・はやす歌は
- (五) 道祖神
 - ・いつするか
 - ・其の仕方
- (六) 俗信
- (七) 其の他
- 二六、正月十五日
- (一) 粥
 - ・何と云ふか
 - ・其の作り方
 - ・其の食べ方
 - ・箸はどうするか
 - ・其の他
- (二) 夜
 - ・道具などの年取りと云はぬか
 - ・其の仕方はどうか
- (三) 其の他
- 二七、若木迎
 - ・何と云ふか
 - ・いつ迎へるか
 - ・誰が迎へるか
 - ・どこの山で迎へるか
 - ・どんな風にして迎へるか
 - ・どんな木を迎へるか
 - ・唱へ言はどうか

- ・家ではどこに置くか
- ・其の他
- 二八、物作
 - (一) 新餅
 - ・何と云ふか
 - ・いつ搗くか
 - ・誰に食はずか
 - ・其の他
 - (二) 繭玉など
 - ・其の呼び方
 - ・作り方
 - ・いつ作るか
 - ・其の他
 - (三) 其の他
- 二九、鳥追い
 - (一) 鳥追
 - ・いつ行ふか
 - ・誰が行ふか
 - ・何処で行ふか
 - ・其のときの歌は
 - ・其の他
 - (二) 道具
 - ・どんな道具を用ゐるか
 - ・其の他
 - (三) 其の他

- ・もぐら(ムクロ)追ひなどないか
- 三〇、正月十六日
 - (一) 藪入り
 - ・やぶ入り子はどこにまいるか
 - ・其の土産は何か
 - ・其の他
 - (二) 農事に関するいろいろなしきたりはないか
 - (三) 牛馬の年取りはないか
 - (四) 其の他
- 三一、果樹責
 - ・何と云ふか
 - ・いつするか
 - ・誰がするか
 - ・唱へ言は何と云ふか
 - ・どんなものを用ゐるか
 - ・どんな木にするか
 - ・其の他
 - ・其の理由
 - ・其の他
- 三二、二十日正月
 - ・何と云ふか
 - ・繭玉等をとる作法は
 - ・食物は
 - ・其の他

三三、恵比寿講

- ・いつするか
- ・其の食物はどうか
- ・どんな風にするか
- ・其の他

三四、正月廿五日

- ・天神様に関する事はないか
- ・其の仕方
- ・其の他

三五、節分

- (一) 名、日
- ・何と呼ぶか
 - ・いつするか

(二) 豆撒

- ・炒り方(人、焚き物、其他)
- ・撒く作法
- △誰がどんな服装をして撒くか、
- △お供の作法はどうか
- △其の他
- ・「福は内、鬼は外」の他に変わった唱へ言は云はないか
- ・其の他

(三) 食物

- ・其の日どんなものを食べるか

(四) せぬ家

- ・豆を撒かぬ家はないか
- ・其の理由

- ・其の日、特別早寝をする家はないか其の理由

(五) 伝説

- ・節分に関する言伝へ
- ・鬼に関する言伝へ

(六) 鬼の目刺

- ・何で作るか
- ・どんな風にするか
- ・其の他

三六、年占

- ・農作の豊凶を占ふ方法はどうか
- ・いつするか
- ・何と呼ぶか
- ・其の他

三七、お日待

- ・いつするか
- ・どこでするか

- ・どんな事をするか

- ・食物はどうか

- ・男女の別があるか

- ・其の他

三八、初午

- ・いつするか
- ・何を祀るか

- ・どんな行事をするか

- ・村休みをするか

- ・其の他

三九、山の神

- ・いつ行ふか
- ・どこで祀るか
- ・供へ物は何か

- ・どんな儀式をするか

- ・どんな食物を食ふか

- ・其の他

四〇、忌イミの日

- ・何日か
- ・どうするか

- ・食物は何か

- ・其の他

*1 青木重孝氏の遺族から佐渡博物館に寄贈されたものである。
 *2 池田哲夫「昭和初期における佐渡の民俗研究体制」 福田アジオ編『柳田国男の世界―北小浦民俗誌を読む』 二〇〇一年 吉

川弘文館

- * 3 一九三七年一二月発行『佐渡年中行事調査要目』後編其ノ二にこの間の経緯が述べられている。
- * 4 こうした考えが佐渡で起こったものかどうかは不明である。柳田国男「佐渡の海府」(歴史と地理)一九二〇(大正九年)で海部土着の推定を述べているので、これの影響があったことも推定される。『柳田国男全集 2』ちくま文庫

(人文学部)